

施策・基本事業評価表

作成日 平成 24 年 8 月 16 日

基本目標No.	2	基本目標名	安全で快適な暮らしやすいまち
施策No.	20	施策名	総合交通体系の整備
主管課名	商工観光課	主管課長名	武田 寛
関係課名	建設課・都市計画課・環境安全課		

施策が目指すすがた	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用しやすい公共交通が整っています。 市民バスは、安全・安心な運行で、多くの人に利用されています。 駅が整備され、乗り換えが便利になっています。 駅を中心としたまちづくりで、地域が活性化しています。
-----------	---

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担や地域等への期待など	市・事業所	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に鉄道やバスなど公共交通機関を利用します。 公共交通が利用しやすくなるための意見や提案を積極的に行います。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利便性の向上について、関係機関等に働きかけ等を行います。 魚津市民バスについて、路線の整備、利用のPRを図ります。 公共交通に関する各種団体及び機関からなる公共交通活性化会議を行います。
	その他	

施策の成果達成にあたっての現状と課題	<p>市内のバスは、民間路線バスと市運行の市民バスなどと高速バスがあります。鉄道は、JRの魚津駅及び富山地方鉄道の4駅があり、地域の主要公共交通(通勤・通学者及び観光客等の足の確保)として重要な役割を担っています。</p> <p>市民バスは、地域ニーズに即した運行方法や料金などの見直し、民間路線バスとの協調や公共交通空白地域への対応と安全運行管理体制の見直しなどが必要です。また、新たに長距離交通手段として期待の高まる高速バスでは利用促進が重要な課題です。</p> <p>鉄道は、魚津駅・新魚津駅が北陸新幹線開業に伴う新幹線新駅からの在来線アクセス駅として整備が求められています。また、交通の結節点として地域活性化も目的とした電鉄魚津駅及び駅前広場整備も早急に進めていく必要があります。</p>
--------------------	--

施策No.	20	施策名	総合交通体系の整備
-------	----	-----	-----------

基本事業名①		事業内容(活動内容)								
公共交通ネットワークの構築		地域におけるバス・鉄道などの公共交通の連携・活性化を図りますとともに、将来における効率的、効果的かつ持続可能な公共交通体系を構築します。また、新たな長距離輸送手段としての高速バス網の強化も図ります。								
①に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
公共交通対策事業		地域における公共交通の活性化を図りますとともに、新幹線開業後の在来線のあり方を検討します。								
高速バス網の強化		魚津ICにおける高速バスのバス停からの長距離公共交通の利便性向上を図ります。								
基本事業①の目的【意図】		各種公共交通機関の利便性向上とともに、乗り換えの利便性を高めます。								
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
市民バスと地域活性化バス(片貝バス)及び地鉄バス利用者数	人	200,149+	201,000	201,800	202,600	203,400	204,200	205,000+	210,000+	
			207,287	212,110				地鉄	地鉄	
鉄道駅利用者数	人	3,025,850	2,990,000	2,960,000	2,930,000	2,900,000	2,870,000	2,850,000	3,050,000	
			2,986,540	3,031,870						
高速バス魚津停留所利用者数	人	0	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	11,000	
			4,003	5,792						
基本事業名②		事業内容(活動内容)								
市民バス体系の強化		民間路線バスとの協調、公共交通空白地域への対応、安全運行管理体制の強化や低床バス導入などの利用環境の整備を進め、安全・安心なバス運行事業を行います。								
②に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
地域活性化バス運行事業		片貝地域における児童や生徒、高齢者等の移動制約者の足を確保するため、片貝地区内においてコミュニティバスを運行しています。								
魚津市民バス運行事業		市民の日常生活に必要な交通手段の確保を図り、もって市民の福祉を増進し、地域の活性化を促進することを目的として、市街地巡回ルート2路線と郊外ルート6路線のバスを運行しています。								
公共交通対策事業(再掲)		地域における公共交通(バス)の活性化を図りますとともに、新幹線開業後の在来線のあり方を検討します。								
基本事業②の目的【意図】		市民及び来街者の移動権を確保します。								
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
市民バス及び地域活性化バス(片貝バス)の利用者数	人	200,149	201,000	201,800	202,600	203,400	204,200	205,000	210,000	
			207,287	212,110						
基本事業名③		事業内容(活動内容)								
在来線の利便性向上		地域における安全・安心な鉄道環境の整備支援と鉄道利用の促進及び北陸新幹線開通後の在来線のあり方を検討し、鉄道駅を中心としたまちづくりや地域活性化を促進します。								
③に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
鉄道軌道輸送高度化事業		新幹線開業に伴う並行在来線の維持活性化等と鉄道を中心とした街づくりの推進や地域活性化を目的の協議会の事業活動に補助金を交付します。								
公共交通対策事業(再掲)		地域における公共交通(バス)の活性化を図りますとともに、新幹線開業後の在来線のあり方を検討します。								
基本事業③の目的【意図】		鉄道の利便性向上による更なる公共交通の活性化を図りますとともに、中心市街地の活性化につなげます。								
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
市内富山地方鉄道駅利用者数	人	1,176,760	1,164,000	1,151,000	1,138,000	1,126,000	1,113,000			
			1,163,000	1,193,000						
JR魚津駅利用者数※	人	1,849,090	1,832,000	1,817,000	1,800,000	1,784,000	1,767,000			
			1,823,540	1,838,870						
※H27年のJR魚津駅利用者数は、北陸新幹線の開業により、在来線の長距離利用者が減少。										
基本事業名④		事業内容(活動内容)								
④に属する代表的な事務事業		事業内容(活動内容)								
基本事業④の目的【意図】										
成果指標名	単位	21年度実績	目標値(上段)及び実績値(下段)						27年度(中間目標値)	32年度(最終目標値)
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		

施策の成果達成にあたって優先的に取り組むべき主な取組み

施策No.	20	施策名	総合交通体系の整備
23年度の 評価結果 (基本事業 の成果を考 慮し記載)	1. 施策(基本事業)の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の利用者数は、18,19,20年度と微増、21,22年度では減少、23年度は微増となっています。 ・魚津市民バスについては、市街地巡回ルート及び郊外型6ルートが運行され、全体として利用者については伸びています。 		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バスについては、本市では、近隣の市とは置かれている状況が異なるため、一概に比較はできませんが、人口に対する路線数や運行頻度は他市よりも利便性が比較的高く、また、料金体系も県内では安価です。一方でバス車両の老朽化が激しく、低床バス車両への更新を望む声が大きいです。 ・在来線の運行は、特急がほとんど停車していますが、北陸新幹線開業後は普通列車のみの停車となる見込みです。新幹線駅のない魚津市にとって市民はもとより来訪者の利便性の低下が大きく懸念されます。 		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・魚津市民バスについては、全市的に一応の整備がなされ、利用者アンケートでも好評を得ており、今後更なる利用増にむけた方策の推進が必要です。一部交通空白地域における実験運行や持続可能で安全運行のための市民バス路線等の一元化に向けた取り組みが必要と考えます。 ・鉄道の利用者数については、JR乗車客が21年度924千人、22年度912千人、23年度919千人、地方鉄道4駅の利用者も21年度589千人、22年度582千人、23年度597千人と横ばい状態となっています。また、少子高齢化社会・北陸新幹線開業後における基幹公共交通として、その機能は重要です。 		
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策及び基本事業の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)		
	<p>【地域活性化バス等運行事業】 片貝地区内にて、児童生徒、高齢者等の移動手段として大いに貢献しています。</p> <p>【公共交通対策事業】 魚津市公共交通活性化会議等を運営し、市民、関係者、関連事業者等との協議の中から、魚津市が目指す公共交通のあり方を検討してきました。</p> <p>【鉄道利用促進対策事業、鉄道近代化補助事業】 人口が減少している中、安全・安心で利用できる鉄道環境の整備を行うことができ、併せて、利用者数の維持に寄与しています。</p>		
	3. 施策の課題認識及び24年度の取り組み状況(予定) (23年度末で残った課題、既に24年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)		
<p>市民バス等公共交通網の構築を行う上で、平成23年度においては、民間バス路線と市民バス料金格差是正と市街地巡回ルートの増便等の各種社会実験や公共交通空白地域への対応と安全運行体制の見直し検討等を行いました。</p> <p>また、鉄道環境の整備については、駅舎のバリアフリー未対応の電鉄魚津駅の整備、駅間における乗り換えの不便さ(移動の高負担)が顕著なJR魚津駅と地鉄新魚津駅の改良、そして各駅前広場の交通結節点としての整備について、平成23年度においては、基本計画を策定し、平成24年度以降、電鉄魚津駅及び駅前広場整備に着手し、公共交通利用環境の改善に努めます。</p>			
部会評価 (協議結果、 今後の方針 及び課題等 について記 載)	※施策の重要度※	重点	
	北陸新幹線長野-金沢間の開業後、在来線・地鉄線の体系の大幅な変化と人口減少・高齢化率の大幅な増加が想定されることから、鉄道駅及び駅前広場の整備により、電車・バス等公共交通の利用環境の改善及び市民バス等の効率的・効果的で持続可能な運行体系の確立を目指します。		
経営戦略会議における 施策の課題 及び方針	・市民及び市外からの来訪者の利便性を確保するため、電車やバス等公共交通の利用環境の改善を進めるとともに、効率的・効果的で持続可能な運行体系の構築を図ります。		